

長期優良化事業で勉強会

劣化・省エネ対策に絞って

とコスト
と日本ボレイト

長期優良住宅化リフォーム推進事業に関連して今年2月に定められた評価基準項目のうち構造躯体等の劣化対策と省エネルギー対策に内容を絞った勉強会が全国9カ所で開かれている。



白アリと黒アリの羽アリの見分け方を説明する浅葉社長

主催は古紙原料のセルロースファイバー(CF)断熱材を販売するデコス(山口県下関市、安成信次社長)と、ホウ酸による防蟻・防蟻処理を行う日本ボレイト(東京都、浅葉健介社長)の2社。15日に広島市で行われた勉強会には、工務店や

木材関連業者ら27人が参加した。冒頭で、新耐震基準以降に建築された物件が対象となる長期優良住宅化リフォーム推進事業について、工事前のインスペクションの実施や、リフォーム履歴と維持保全計画の作成が必要といったルールを紹介。補助率3分の1で、新築同等のS基準は最大200万円、一定の性能向上を見込むA基準で同100万円が補助される制度の概要を説明した。省エネ対策編としてデコスの田所憲一企画部長が「燃料コストは上昇している。省エネルギーのメリットを数値化すれば納得してもらえ。断熱工事で必要なのは施工だが、鉱物系断熱材の施工は現場でまちまちだ。デコスは20年無結露を保証している」と責任施工の重要性を説いた。ホウ酸処理を伴う製品販売という共通点でデコスと提携している日本ボレイトは、浅葉社長自ら講師を務めた。

リフォーム推進事業で劣化対策と耐震性の担保が必須になっている点を挙げ、2011年に木材保存処理に認められたホウ酸の高い防蟻効果と、環境や人体への毒性が低い点を強調。ミツバチ大量死の原因と疑われ、予防原則が常識の欧米では、使用が制限される方向にあるネオニコチノイド系の薬剤が、日本では平然と使われていると指摘した。なお、勉強会は引き続き、6月4日に東京(満席)、5日仙台、6日福岡で開かれる。